



4月を振り返って

4月新学期が始まり、気持ちも新たにスタートを切った人が多いと思います。4年生は今、一次選考（筆記試験）の準備と論文作成に気合が入っていることと思います。先日お知らせしたように、東京都は一次選考を3年生で受験できるようにルールを変更しました。そのため東京都の受験を考えている皆さんの中には「7月に一次選考を受けてみたい！」と考えている人も多いと思います。教職課程センターには過去問も含め、様々な資料がありますので、受験を考えている3年生もぜひ早めに教職課程センターに登録して、センターを活用してください。数学・理科の授業で、登録用紙やロードマップなどを配布してもらいますので、早めの準備をお願いいたします。まずは一度教職課程センターに来てください。4年生には、教育実習向けの模擬授業の設定も致しました。実習前に必ず模擬授業も経験しておきましょう。

5月の予定

教育実習が近づいてきました。教職課程センターでは5月も模擬授業講座を設定しています。8日～24日の3限、4限で設定していますので、メールに添付したエクセルシートを使って一人2回を目安に申し込んでください。先着順に日程を調整します。最新の情報はスプレッドシートにアップしておきますので、空いているコマを探して積極的に申請してください。授業はライブです。実際に自分でやってみないとわからないことがたくさんあります。実習とはいえ、実際に生徒たちの前に立ち授業を行うのですから、準備（教材研究）は必須です。教材研究についての詳細は「こがねい」4月号をご覧ください。

教育実習が始まります！

いよいよ教育実習が目前に迫ってきました。私が教育実習を行ったのは、もう40年も前のことですが、今でもその時の記憶は鮮明に残っています。中学校1年生の理科の授業と、学級担任を任されたのですが、私の指導を担当した教諭は、「おっ実習生、2週間よろしくね！」と言ったきり一切授業に顔を出しませんでした。（丸投げ状態！）かなり焦りましたが、月曜日の1時間目の学活の時間に、初対面の生徒たちに自己紹介をして、色々と質問を受けていくうちに、生徒たちが私を受け入れてくれたのでほっとしました。その後の授業でも、実験や観察など、誰も指導してくれなかったので、すべて手探りでしたが毎日必死に取り組みました。とにかく登校時刻から下校時刻まで、ひたすら子どもたちに寄り添って対応し続けました。そんな生活が2週間続いた実習最終日に、私にとって一生忘れられない出来事がありました。最後の学活の時間に、担任をしていたクラスの生徒たち全員に囲まれて「先生、大学に戻らないでこのまま私たちの担任でいてください！」と涙ながらに訴えられたのです。子どもたちにとってみれば、自分たちを見捨てて2週間姿を現さなかった担任より、授業もへたくそで未熟だけど、真剣に自分たちのことを心配して寄り添ってくれた実習生の方が、何倍もうれしかった！という気持ちの表れだったのです。私も自分をこんなにも慕ってくれている生徒たちと別れなければならないと思い、涙が止まりませんでした。実はこのエピソードは、教職の本質を表しています。授業のスキルやテクニックは確かに教師の資質として大切です。しかし、**教師として最も大切な資質は実は「ホスピタリティ」なのです。**「ホスピタリティ」とは『主人が客人のために行う行動で、それを受ける客人も感謝の気持ちを抱き、客人が喜びを感じていることが主人に伝わり、共に喜びを共有するという関係』、即ち両者の間に「相互満足」があってこそ成立する関係です。「主人」を「教師」「客人」を「生徒」に置き換えてみてください。「ホスピタリティ」= 教師と生徒の信頼関係を築くことが、教職の本質です。簡単なことではありません。マニュアルもありません。教師を志した一人一人が、生徒と一緒に活動していく中で、手探りでもがきながら獲得していくしかない資質です。教職志望の皆さんは、今からこの「ホスピタリティ」を意識しながら生活してみてください。GREAT TEACHER となるための大切な条件と言えるでしょう。

充実した教育実習にするために

私自身の教育実習生としての経験、私が授業者として実習生を指導してきた経験、管理職として実習生を指導してきた経験等、様々な経験を通して、数多くの実習生が実習を通して大きく変容し、教職に対する意欲が高まっていく姿を、今までたくさん見てきました。いよいよ次は皆さんの番です。これから始まる教育実習を通して、一生の記憶に残る体験をしてほしいと願っています。

チャレンジャーであれ！

子ども達との関わり、教科指導、学級活動、学校行事等、皆さんにとっては初めて経験することばかりです。初めてだから失敗もあります。でも失敗すればそこに貴重な学びがあります。皆さんは失敗を恐れてはいけません。**失敗した時が次に大きく成長するチャンス**なのです。失敗を恐れずにチャレンジして、そこから多くの気づきを得てほしいと思っています。心配しないでください。生徒も先生方も皆さんの失敗を受け入れてくれます。

伴走者であれ！

教師の仕事はマラソンの伴走者に似ています。ランナーが走り始める前は「今から一緒にゴールを目指そう！」と励まし、好調に走っている間は「その調子！」と見守り、少し苦しくなってきたと感じたら「ペースを落としましょう！」と助言して体調に配慮し、脚が止まりそうになったら「次の給水所で給水と補給をしよう」と言って休息を取らせる。このように常にランナーファーストで、時に励まし時に支え、ランナーと運命を共にする。ランナーの悩みを減らし、ランナーの喜びと一緒に分かち合う。**必要な時に必要なだけのサポートを提供する**のが、伴走者の役割ですね。教師の仕事もランナーを生徒と読み替えれば、この役割がぴったりと当てはまります。

一人で抱えない。共有する。秘密は守る。

生徒に寄り添って活動していれば、様々な生徒の実態が見えてきます。何の悩みもなく平和に暮らしている生徒はごく少数で、ほとんどの生徒は何らかの悩みを抱えながら生活しています。（自分の中学校、高校時代を思い出してみましょう。色々あったはずです。）生徒の悩みは多岐に渡り、親子関係・友人関係・成績・進路等様々です。生徒に寄り添えばそんな生徒たちの悩みも肌で感じます。時には年齢が近いこともあり悩みを打ち明けられ、相談されることもあると思います。そんなときはじっくり話を聴いてあげてください。解決しようと思わなくていいです。悩みは誰かに打ち明けて聴いてもらうだけで軽くなります。でも一人で抱えてはいけません。必ず担任や学年の先生方と情報共有してください。あなたが個人で単発の指導をしてはいけません。また**職務上知りえた個人情報については守秘義務（他に漏らしてはいけない義務）が課されている**ことを忘れないでください。

最初はTTP！


いきなり授業で自分独自の教材や指導法を展開することは不可能です。まずは先輩方の授業を見学してください。他教科の授業も見学してください。授業はその一時間の取り組みで生徒たちを変容させる取り組みです。必ず狙い（めあて）があり、ゴールがあります。授業者は導入で本時のゴールを示し、展開で生徒に活動させ、まとめで本時の学びを整理し次のゴールを提示します。そんな一時間の授業の中には、発問の工夫や既習事項の掘り起こし、様々な意図的なアクションがちりばめられているはずです。見学する皆さんも、ただ見るだけでなく、そんな授業者の想いや願い、様々な仕掛けを感じて、そこからさまざまなスキルやテクニックを吸収してください。いきなりレベルの高いオリジナルな授業を作り上げるのは無理です。まずは**先輩の授業から自分でも使えそうな箇所を感じ取って、自分なりにアレンジして自分の授業に生かす（パクリ）**という取り組みを行ってください。最初はパクリでいいのです。その内容に、自分の色を少し加えることで、自分流にアレンジします。そんな取り組みを重ねていくことで少しずつ自分だけにしか出来ない真の「オリジナルな授業」に近づけていけばよいのです。**キーワードはTTP（徹底・的に・パクリ）**です。

指導案作成にチャレンジしよう！

実習中盤、後半になれば実際に授業を行うこととなります。

授業を行う際に大切なのは「指導計画」即ち「指導案」です。正式な指導案の書式については3月号で特集していますので、そちらを参考にしてください。ただ毎回の授業の度に正式な指導案を作成することは不可能です。（そんな時間的余裕は皆無なので）そこで私はA4 1枚の紙に1時間の授業の大まかな流れと、指導上の注意点、行うべき発問と予想される回答、予定している板書等を書いて「授業メモ」としてそのメモを時々見ながら授業を進めることをお勧めしています。

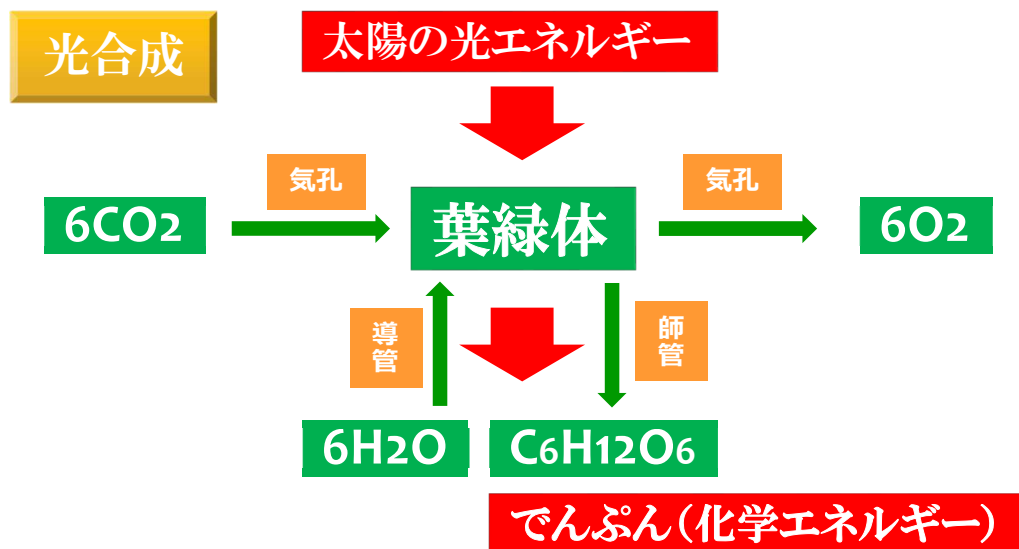
本時の指導案（授業メモの例）

学 習 活 動	時間	指導上の留意点	評価
◇生徒の学習活動を書く。		◇教師が学習活動を充実させるために何をするのかを具体的に書く。	◇評価規準、評価方法を書く。
説明を聞く		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 課題等を書く </div>	
今日のめあてを理解する		◇予想される生徒の反応と教師の手立てについて、具体的に書く。（発問計画）	○●について説明できる（知識）
器具を準備する		◇観察・実験で使用する材料器具等を書く。	△△について目的通りの作業ができる（技能）
手順通りに実験を進める		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 0 auto;"> ・予想や考察、まとめ、振り返り等、自分の考えを表現させる学習活動では、その例を示すようにする。 →本時でめざす生徒の姿が明確になり、指導の手立てが明らかとなる。 </div>	□□を表現しようと工夫している（態度）
片づけを行う		◇板書計画を書く	
結果をまとめる		◇まとめと考察のポイントを書いておく	

何年か経験を積むとメモが無くても前回の記憶を頼りに授業を進めることができるようになります。しかし1年生～3年生までの全単元の授業を一通り経験するまでは、やはり事前の準備は必要です。私は理科の授業を担当していたので、特に実験・観察がメインの授業に関しては、前日の「予備実験」は欠かせませんでした。予備実験を行うからこそ、気づくことも多いものです（特に事故やけがの未然防止のための指導上の注意点等）実際には4クラスを指導するとして、最初のクラスで試してみても改善点に気づき、次のクラスで改善点を取り入れて修正し、3クラス目でほぼ狙い通りの展開に持ち込み、4クラス目では目標が十分達成できる・・・そんな日々の繰り返しでした。それでは最初のクラスがかわいそうだと思うかもしれませんが、年に何回か時間割も変更になり、授業の順番も変わるので、年間を通してみれば大体公平になることが多かったです。

前号では教材の役割と教材研究の意義

について紹介しました。今回は実際に授業を行う際に使える**教師の“武器”**についてお示します。**最初の“武器”は【板書】**です。【板書】にはいくつかの機能があります。例えば、**1. 意見の集約**：子どもの意見を拾い上げ、黒板に一覧で示すことができます。**2. 用語・語句の紹介**：新出語句やキーワードを紹介することができます。これらは全員に一斉に情報を伝達することを目的とした「クリップボード」としての機能です。場合によってはホワイトボードやスクリーンを使って PPT などでも代替できる場合があります。しかし板書にはもっと大切な機能があります。それは **3. 思考の整理、概念図の作成**です。具体的には、例えば「光合成」という概念を説明するのに「**植物の葉が太陽の光を受けて、二酸化炭素と水から、でんぷんを作り出す働き**」と伝えたところで、子どもたちは「ふ〜ん」で終わりです。何の記憶にも残らないことでしょう。なぜならば、**語句や働きの伝達だけでは、「概念」の理解には程遠い**からです。そこで威力を発揮するのが「**概念図**」なのです。書かれたものを示すのではなく、黒板に書きながら説明することで、子どもたちの理解を深めることができます。以下に例を示します。



上の図は光合成についての概念を1つにまとめた図ですが、切り口によって色分けしています。

① 緑の矢印は物質変換を示しています。 $6\text{CO}_2 + 6\text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6 + 6\text{O}_2$

つまり **葉緑体は物質変換装置としての機能を持つ** ことを説明できます。

② 赤の矢印はエネルギーの流れを示しています。 **光エネルギー → 化学エネルギー**

つまり **葉緑体はエネルギー変換装置としての機能を持つ** ことを説明できます。

③ オレンジ色のキーワードは物質が出入りするための植物の体のつくりを説明しています。

このキーワードで、**茎の構造（導管 + 篩管 = 維管束）と葉の構造（気孔）** を説明 できます。

光合成という植物にとっての重要なはたらきを、「物質変換の側面」、「エネルギー変換の側面」、「植物の器官の側面」というように、**複数の切り口で概念化し、深い学びへと導くことができます。**

このように板書の図解を活用することで、物質の変化や、時間の経過、運動の変化、温度の変化等の**様々な「変化」を可視化・概念化し、子どもたちの理解に結び付けることができます。**完成した図を与えても、概念化の効果は半減します。図を描きながら説明を加え変化をイメージさせることで、より深い理解へと子どもたちを導くことができます。**板書が強力な武器である理由は、この「概念化」の機能があるため**です。